



ごあいさつ

毎日暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。三重県に住んでいながら知らなかった多くの場所を訪れ、たくさんの人に出会い、「三重県が好き」と前よりもっと思えるようになりました。県会議員として2年目の夏。もっといい三重県に!笑顔あふれる三重県に!という思いを持って取り組みます。

平成24年第1回定例会(2月15日~6月27日)が閉会しました。行財政改革や県政の展開方向、予算等、多くの内容について議論しました。これからも働く人々・女性・子どもに関わる視点を大切にしていきます。

所属委員会 ○環境生活農林水産常任委員会 ○予算決算委員会 ○議員提出条例検証特別委員会

第1回定例会について

◎「みえ県民カビジョン」策定

- 県民力でめざす「幸福実感日本一」の三重
- 自立し行動する県民「アクティブシチズン」として

自立し行動するって? -自らの判断と責任の下で、公共心を持って社会の一員として生きていくこと。地域社会や企業の一員として、進んで責任を果たしていくこと。

- 「協創」の三重づくり

協創って? -それぞれが「公」を担う主体として自立し行動することで、協働による成果を生み出し、新しいものを創造していくこと。

◎政策展開の3つの柱

I 「守る」 ~命と暮らしの安全・安心を実感できるために~

防災・減災対策の推進、がん対策の推進、大気・水環境の保全など。

II 「創る」 ~人と地域の夢や希望を実感できるために~

人権が尊重される社会づくり、地域に開かれた学校づくり、学校における防災教育・防災対策の推進、児童虐待の防止と社会的養護の推進、競技スポーツの推進など。

III 「拓く」 ~強みを生かした経済の躍動を実感できるために~

農林水産業のイノベーションの推進、ものづくり三重の推進、雇用への支援と職業能力開発、観光産業の振興、国際戦略の推進など。

◎特に注力すべき政策課題として

「緊急課題解決プロジェクト」

県内の状況や社会情勢の変化をふまえ、緊急に対処すべき重要課題を解決するため、重点的に取り組むプロジェクト10本

「新しい豊かさ協創プロジェクト」

新しい三重づくりを進めるために、中長期的な視点から県民のみなさんの持つ様々な力を結集して取り組むプロジェクト5本

「南部地域活性化プログラム」があげられています。

6月会議一般会計補正予算のポイント

災害廃棄物適正処理促進事業費：74,147千円の内訳として

①三重県災害廃棄物広域処理検討委員会の運営：1,176千円

専門家5名による検討委員会設置、ガイドラインの策定及びモニタリング結果の検証。

②受入市町決定までの連絡調整、住民説明、結果の公表：21,744千円

受入想定市町等の住民を対象とした説明会の開催、被災地の現地状況調査等を実施。

被災県との基本協定締結、受入想定市町と個別計画の策定をおこなう。

☆6月27日現在の住民説明会開催予定市町は、伊賀南部環境衛生組合(名張市、伊賀市)と多気町です。

③試験焼却処理委託：13,592千円

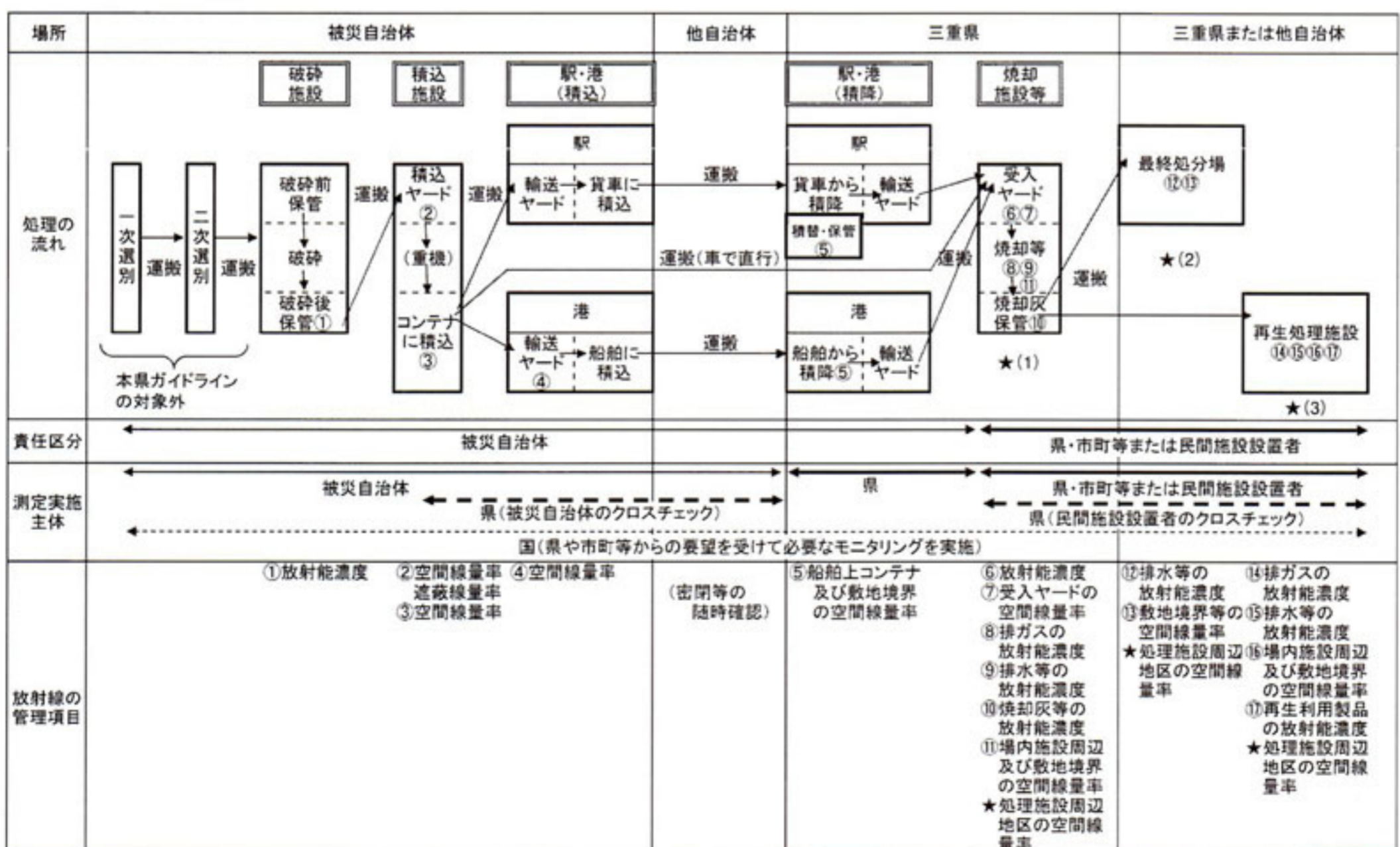
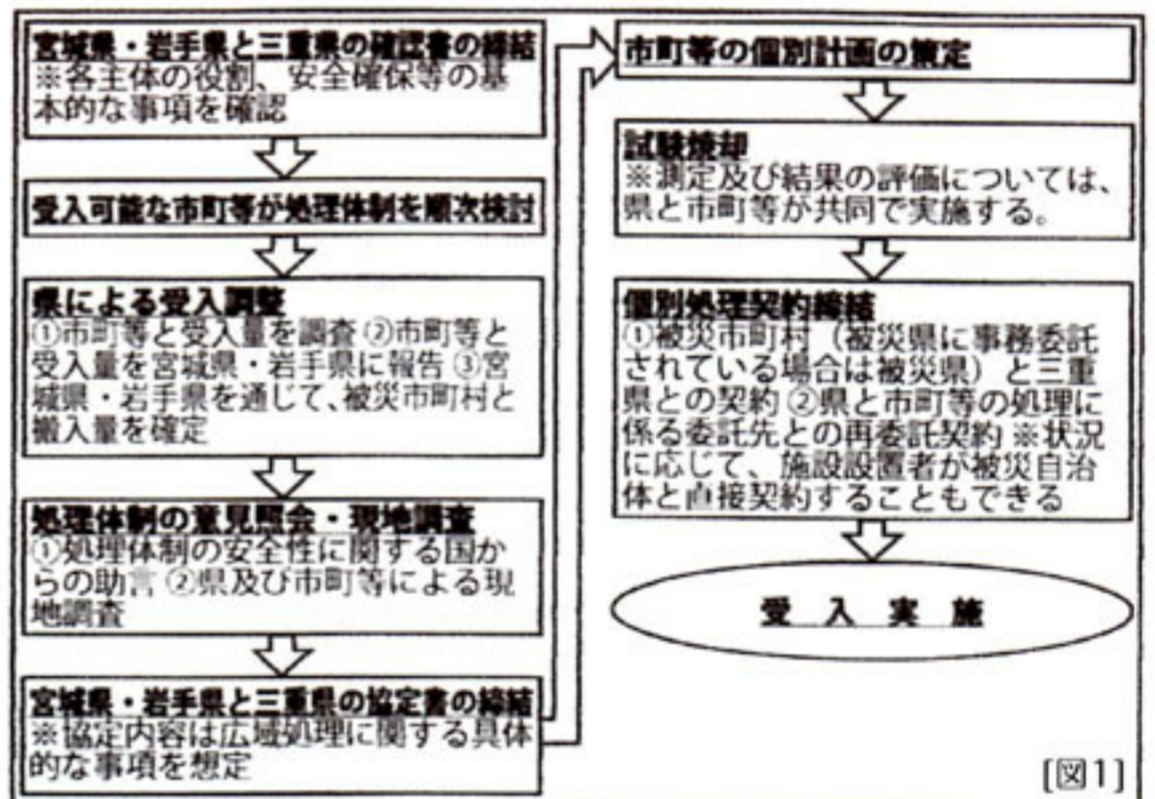
受入を決定した市町までの県内における災害廃棄物の運搬、及び試験焼却の委託等を行う。

④モニタリングの実施、公表：37,635千円

搬入予定の災害廃棄物や、運搬中、試験焼却における放射線量の測定及び結果の公表を行う。

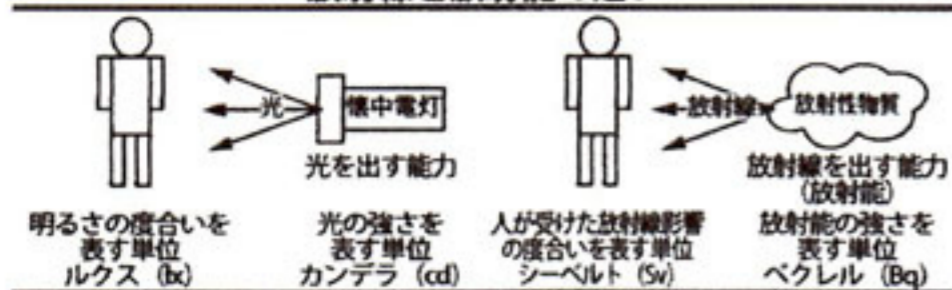
三重県における東日本大震災の災害廃棄物処理に関するガイドラインの概要

- 目的：**東日本大震災により発生した災害廃棄物を県内で処理する場合の安全性の確保
- 対象：**宮城県、岩手県内の災害廃棄物のうち木くずとその他の可燃物(紙くず等)が混合した混合廃棄物
- 災害廃棄物の放射能濃度**
 - 放射性物質は、セシウム134及びセシウム137
 - 作業従事者及び周辺住民の線量限度は、一般公衆の年間線量限度の1ミリシーベルト/年未満
 - 放射能濃度の目安値
 - 災害廃棄物の受入処理の目安値 100ベクレル/kg以下
 - 焼却灰の埋め立て処分目安値 2000ベクレル/kg以下
 - 処理により得られた再生利用製品の目安値 100ベクレル/kg以下
- 災害廃棄物の受入の基本的な手続き(→図1)**
- 災害廃棄物の放射線モニタリング(→図2)**
モニタリング地点は、図2の①～⑰と★(1)～★(3)エリアです。
- 情報の公開**
測定結果を速やかにホームページで公開します。

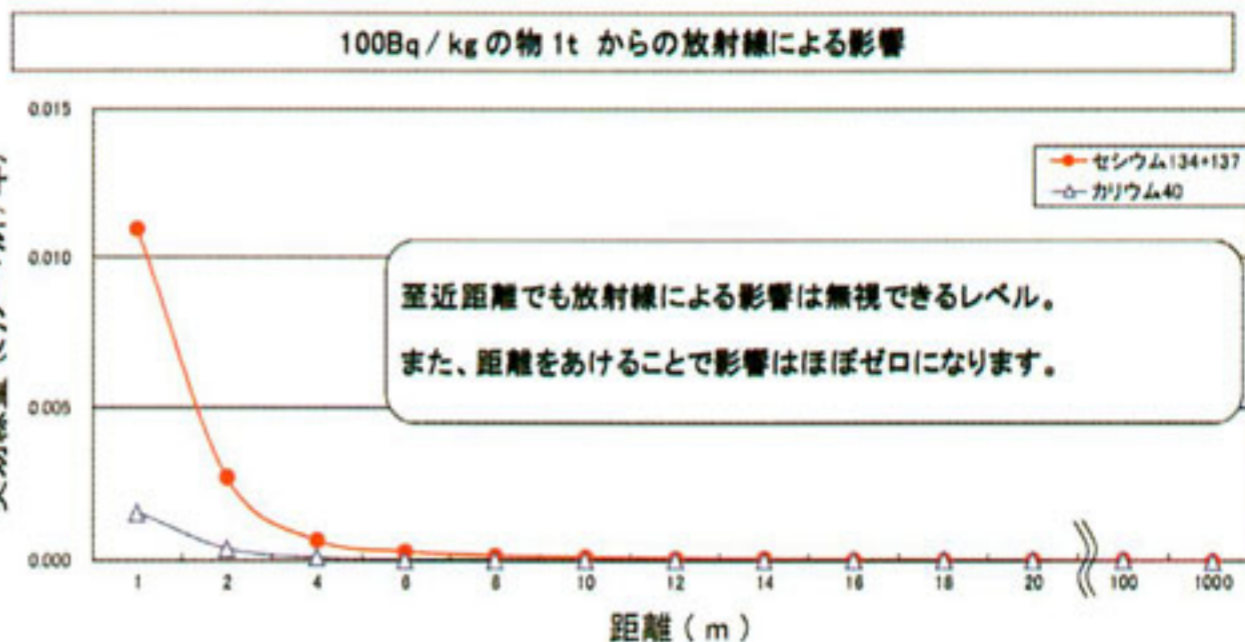
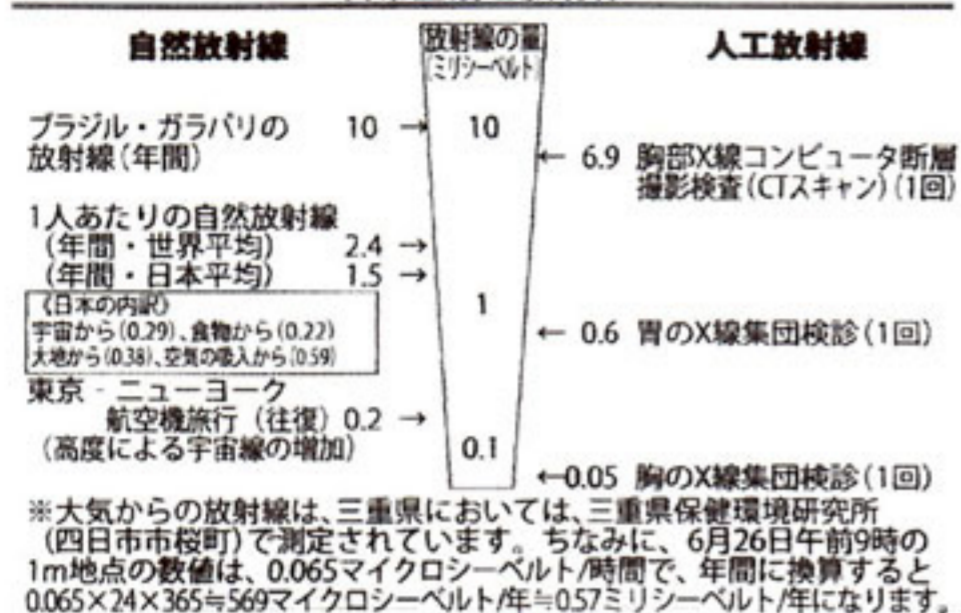


6月会議一般会計補正予算のポイント

放射線と放射能の違い



日常生活と放射線



1トンの物が裸で置かれ、あいだに土、構造物、衣服などの遮蔽する物がない状態で、近くに年間1000時間立ち続けるという通常起こりえない厳しい想定で計算した結果です。実際には、近づく時間が限られていたり、容器、土、構造物、衣服、その物自体など物質の中を通る間に放射線は弱くなりますので、実効線量は計算結果よりもはるかに少なくなります。

(*)IAEA-TECDOC-1162「放射線緊急事態時の評価及び対応のための一般手順 手順書E1」の方法により、点源として試算。

命を守る「ドクターヘリ」始動!

桑名市内では、2月20日(月)長島町運動公園(長島町押付)で訓練が行われました。(訓練当日、すでに本格運行に入っている地域からの要請が入り、2時間ほど開始が遅れました。桑名消防の方々が参加しました)



- 桑名消防地内のヘリコプター臨時離発着場は45カ所です。うち
 - ・桑名市20カ所(学校運動場11カ所、野球場、駐車場等)
 - ・木曾岬町3カ所(木曾岬小中グラウンド、グルービーパーク木曾川)となっています。

- 出動実績としては、
 - ・平成23年度(2月3日~3月30日):19回
 - ・平成24年度(4月2日~6月30日):53回 となっています。(要請があっても、強風や天候不良により出動できないこともあります)

- 救急車では時間がかかり、とても助からなかったというケースが実際にありました。命を守る最前線で働くドクターヘリ、騒音等付近の住民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



くわな特別支援学校が開校しました

平成24年4月、くわな特別支援学校が開校し、6月3日に開校式が行われました。123名の児童生徒が通っていますが、入学式から約2ヶ月経って子どもたちは少しずつなじんでいるように感じました。小学部・中学部・高等部それぞれの発表があり、中でも高等部の「南中ソーラン」は圧巻でした。桑名高校吹奏楽部の演奏も行われ、最後はみんなで「幸せなら手をたたこう」を歌って閉会となりました。

今後、地域や地元企業との協力・連携がますます進み、「地域で学び、地域と関わり、地域で活躍する子ども」が育つよう期待されます。職業自立支援コースが設置され、高等部2年生から週1回、企業実習が行われる予定です。学校から社会へつなぐこと—今後の大きな課題です。



東日本大震災から1年、岩手県山田町へ。 4/13~4/15



▲(織笠保育園より町を望む)織笠保育園は津波に対する避難訓練を平時よりしていたそうです。散歩に出る直前だったのが幸いでした。



みえボラパックIIは、昨年第36便まで山田町を訪問し、ガレキ撤去や写真洗浄等に取り組んできました。この4月からは文化的な交流や、傾聴のとりにくみが始まっています。みえボラパックII第1便として、「桑名の千羽鶴を広める会」サポーターとして個人ボランティアを含め18人が山田町を訪れました。

仮設の集会所や公民館など、2班に分かれて連鶴を折りながら地元の方々と一時を過ごしました。

「地震発生からしばらくは情報が混乱し、行方不明ということになっていて、関東にいる息子がとても心配でした」「ヘリコプターが飛び交い、自衛隊や警察の車両が行き交い怖かった」「海の上にはいたけれど、すごい衝撃を感じ、一目散に沖に向かって船を走らせた。ガレキや火災で港に近づけず、妻は私が死んだと思っていた。私も妻は死んだと思っていた。」「車で逃げていたら津波が追いかけてきたが、運良く坂道があって助かった。前を走っていた軽トラの運転手は車を降りて走って逃げたが、若い人だから助かったらどうか。」鶴を折りながらポツポツと地震・津波について話していただき、ただただ聴いていました。忘れずに、息の長い支援を続けることがこれからもっと大切です。

ご意見・ご要望…
ご連絡お待ちしております。

小島とも子事務所

〒511-0903 桑名市大山田4丁目17-6 Tel.0594-25-8182 Fax.0594-25-8183
HP <http://kojimatomoko.com> E-mail tomokokjm@gmail.com